

第1部 講演

第2部 交流・情報交換会

ワールドカフェで出会おう！語り合おう！

ファシリテーター

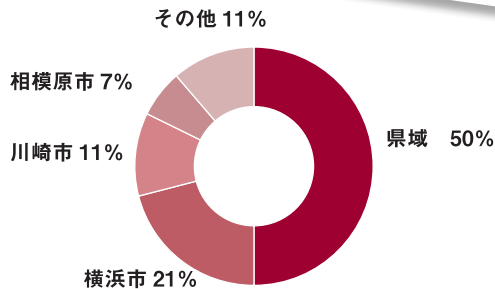
特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
センター長 佐塚 玲子



参加者の所属 (62名 男女比 4:6)

- ・児童福祉施設 10
- ・障害者福祉施設 7
- ・高齢者福祉施設 6
- ・保育所 6
- ・相談支援事業所 2
- ・地域包括支援センター 6
- ・その他関係機関・団体 7
- ・社会福祉協議会 2
- ・民生委員児童委員 7
- ・保護司 5
- ・学校 1
- ・企業 1
- ・一般 2 (人)

地区別



ファシリテーター 佐塚 玲子

PROFILE

慶応義塾大学卒 / 神奈川県立保健福祉大学大学院修了
横浜市地域ケアプラザ職員、認定特定非営利活動法人市民セクターよこはまの勤務経験から地域福祉への関心を深める。2012年特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センターを故泉一弘氏と設立。以来、センター長、副理事長として勤務

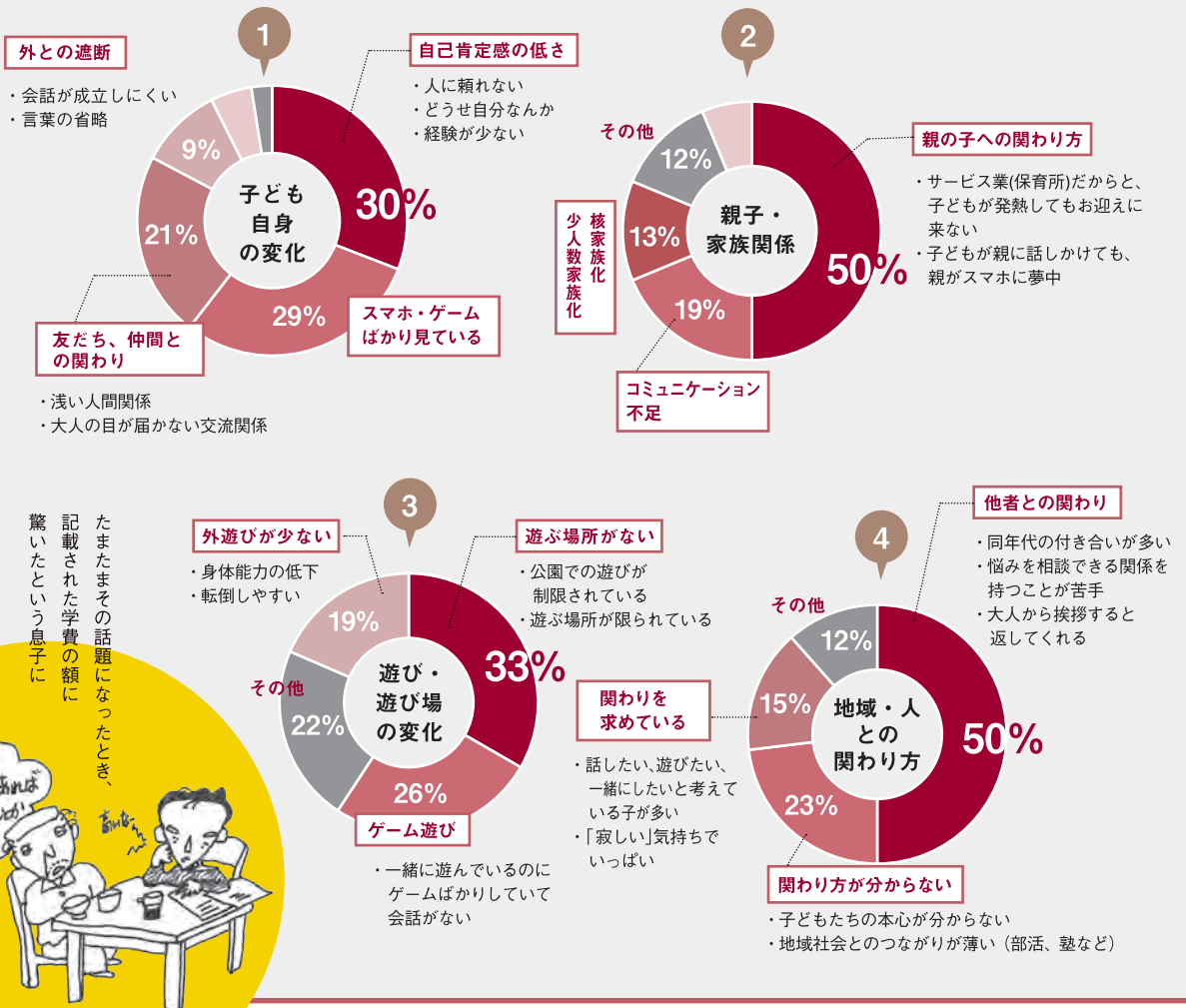
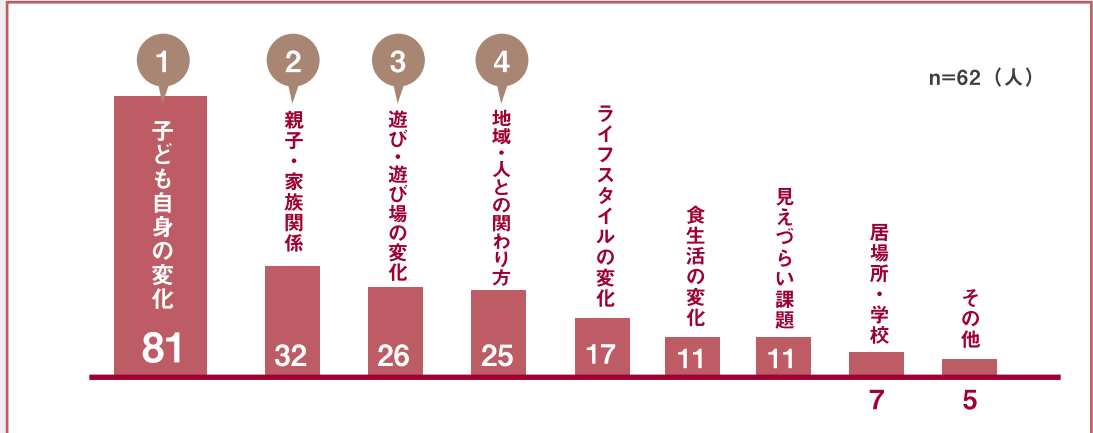
積んでおく、
見ていることも
あるようだった。



ワールドカフェで出会おう！語り合おう！

テーマ1

子ども・若者の暮らしの変化で気づいていることはどんなこと？



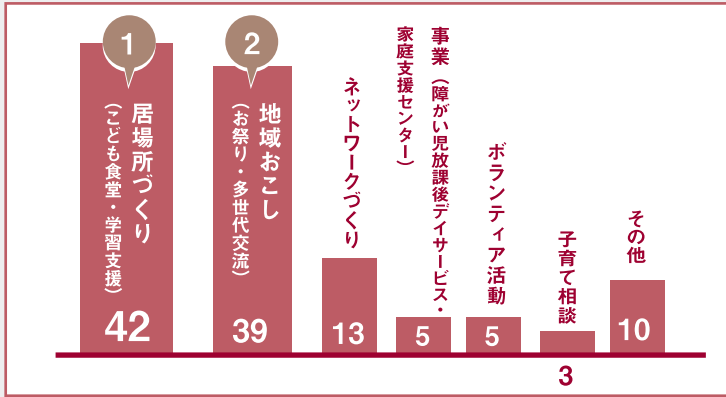
たまたまその話題になったとき、記載された学費の額に驚いたという息子に



と話した。

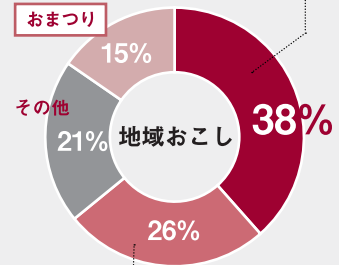
テーマ2

地域で行いたい取り組みはどんなこと？



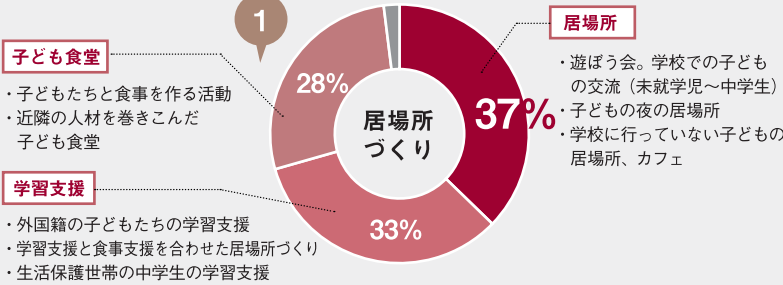
2 多世代交流

- ・年代を超えてテーマ(趣味など)で集い交流できる場
- ・子ども、障害者、高齢者の交流の場
- ・異文化交流



地域おこし

- ・子ども会の復活
- ・子どもたちの商店街でお店体験
- ・就労困難な若者による仕事おこし



子ども食堂

- ・子どもたちと食事を作る活動
- ・近隣の人材を巻き込んだ子ども食堂

学習支援

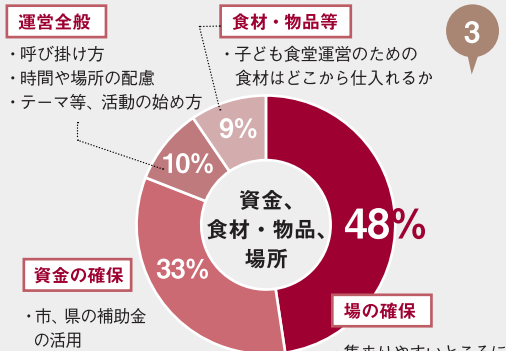
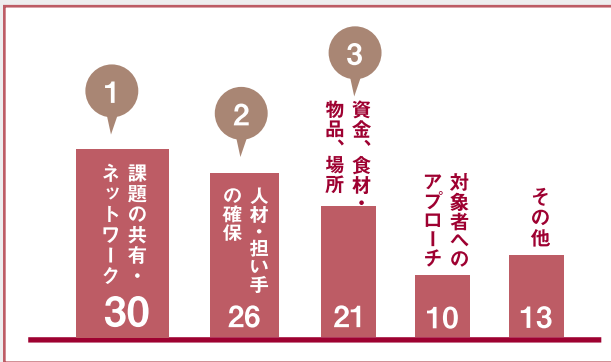
- ・外国籍の子どもたちの学習支援
- ・学習支援と食事支援を合わせた居場所づくり
- ・生活保護世帯の中学生の学習支援

居場所

- ・遊ぶ会。学校での子どもの交流(未就学児~中学生)
- ・子どもの夜の居場所
- ・学校に行っていない子どもの居場所、カフェ

テーマ3

取り組んでいる活動・これから取り組もうとする活動の課題って何？



運営全般

- ・呼び掛け方
- ・時間や場所の配慮
- ・テーマ等、活動の始め方

食材・物等

- ・子ども食堂運営のための食材はどこから仕入れるか

資金の確保

- ・市、県の補助金の活用

場の確保

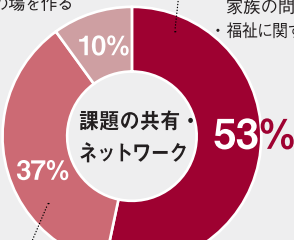
- ・集まりやすいところに適した場所がない
- ・空き家の活用方法

1 ネットワークづくり

- ・関心のあること、問題意識に温度差がある。
- ・共有の場を作る

地域での課題共有

- ・貧困に対する大人の理解不足
- ・子どもの背景にある親、家族の問題
- ・福祉に関する世代間の意識の差



関係機関・専門職等との連携

- ・子どもの見守りを行いたい、教育機関との情報共有ができない
- ・学校、民生委員等と連携したい

2 求める人材の確保

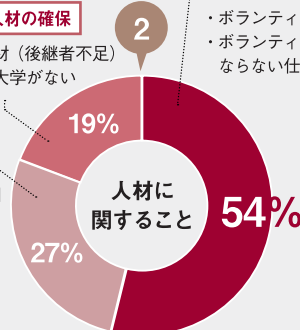
- ・若い人材(後継者不足)
- ・近隣に大学がない

人材不足

- ・ボランティアの確保と育成
- ・ボランティアが負担にならない仕組みづくり

地域の人材活用

- ・高齢者世代の知恵を活用
- ・地域の人材集め、協力を得る方法を模索中



飄箆から駒で、これが彼を支えた。そして具体的な進路話ができるようになった。



参加者の声



原 美乃梨さん

サンタの家子ども支援員・ひまわり保育園保育補助

子どもの貧困や居場所づくりに取り組む中で、とても難しい問題だと思っていた「ユースワーク」のやり方を自分はどう作っていいのか、無理なのかと思ってくじけていた時に今回の講演を聴き、「認められる」「多様性」「関係性を試せる」「受け入れる」「失敗が許される」そんな場所をと、改めて立ち戻ることができました。焦らずに今からもう一度、勉強・体験、学びながら、交流を持ちながら頑張っていこうと思いました。



廣畑 成志さん

港南台子育て連絡会・代表

子ども、若者が家族や仲間、地域や社会、そして人間関係から「逃避」する構図があると思います。この構図を逆戻りさせる制度づくりが必要です。NPO、地域力の構築をどう図っていくのか、ため息の出る問題です。関係性から「逃避」していく子ども、若者にいかに“待った”をかけるのか、具体的な構図と展望が欲しいと感じています。彼らが主人公となって力を発揮し、自信を持てる装置をいかに作っていくか考えたい。



A さん

児童発達支援・放課後デイサービス

これから新しい事業をスタートさせるにあたり、子どもたちにとってどのような場が必要か、思うように考えがまとまらずにいましたが、今日の話を知り、足掛かりができたように思いました。ワークでは、話すことで自分の思いが整理できたり、知識を得ることができました。今後の活動に役立てていきたいと思っています。楽しかったです。



金子 玲子さん

社会福祉法人 徳栄会ももん保育園・園長

立場が違うと見方、考え方が違って面白く、楽しく参加できました。活動の運営資金は内閣府の助成金を使うという話など、参考になりました。居場所づくりへの取り組み、できるかな。勇気が必要。



紀野 まり子さん

認定 NPO 法人 ぐる一ふ藤 こども戸まるだい・管理者

子どもが必要としている支援の多様性が理解できました。楽しかった。視点の違う意見も参考になりました。

家族みんなが未来に光を見いだした。





田部井 恒雄さん

社会福祉法人 長尾福社会・事務局

子ども食堂などを実践している方たちがたくさんいらして、スゴイ!と思いました。障害者施設が地域の居場所の中心的存在となるように頑張ります。



山口 海衣さん

社会福祉法人 伸生会 福祉事業対策室 室長補佐

現代の子ども、若者の支援は一方からのアプローチでは支援がうまくいかないこと、地域全体での交流が大切であり、またその場所を作ることが大切であると感じました。他法人の方や地区社協の方など多種多様な方々との意見交換ができて良かったです。このような機会をまた作っていただきたいと思いました。



倉橋 美弥子さん

川崎市多摩区管第二地区民生委員児童委員協議会 民生委員児童委員（主任児童委員）

一つの主体による支援では限界があるので、チームを作って多方面から見ていくためにはどうすればいいのか、どこが声を上げていくのか、難しい問題だと思いました。子ども・若者の居場所が全国にできればよいなと思いました。



大神田 絵美さん

横浜市城郷小机地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーター

今回、担当地区の小学校長や青少年指導委員さんからもお声かけをいただき、当該地域でもようやく夕方からの子どもの居場所プロジェクトを進めていこうと、勉強会を開く計画に発展しました。今日の皆さんのパワーを参考に一歩前進したいと思えるフォーラムでした。



関 修司さん

秦野保護司会理事・少年および薬物問題部会長

いろいろな方の意見や活動について聞き、とても参考になりました。なんとなく共通する課題を感じていました。このようなフォーラムの、より具体的な第2弾に期待します。自治会連合関係の人に参加してもらおうと面白いかと思います。

数か月後、
彼は少し遠くの
私立高校に入学した。



知りたい ・ 聞きたい ・ 見つけたい 活動をつくる・進める・広げるための情報ナビ

子ども・若者の居場所づくりをはじめ、地域で課題を共有する場やネットワークづくりなど、具体的に活動を進めるにあたって必要な「人・情報・お金」。そうした情報の入手先、活動に関する相談に応じる窓口を紹介します。



ともに活動する仲間と出たい ～地域福祉を進める主な機関・団体・人～

活動を進めていくにあたり、一緒に取り組むボランティアや民生委員児童委員、自治会や地区社協といった住民による組織や、社会福祉施設と連携することにより、ぐっと活動が広がります。

市区町村社会福祉協議会

地域の福祉ニーズや生活課題について、関係者で協議しながら地域づくりを進める民間の団体です。地域の社会福祉施設、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、当事者団体とのかかわりも深く、活動を通じたつながりづくりも支えます。

地区社会福祉協議会

より身近な地区で福祉活動を担う組織の協議体です。自治会、民生委員児童委員協議会（民児協）、子ども会、老人クラブ、学校等、様々な組織により構成され、高齢者や子どもを対象としたサロン活動等、地域の課題解決を基にした取り組みを進めています。

社会福祉施設

地域の中には、高齢者、障害者、子どもを支える、さまざまな社会福祉施設があります。最近では、子ども食堂やサロン活動に施設内のスペースを開放するなど、地域の居場所活動に職員を派遣する施設もあります。場所や専門職の協力など、相談することでつながりや協力が得られるかもしれません。直接の相談が難しい場合は、市区町村社協に相談してみましょう。

民生委員児童委員

地域住民の身近な相談相手、必要な支援のつなぎ役として、関係機関・団体と連携して、子どもが育ちやすい環境づくりや、相談、支援活動を行っています。

保護司

保護観察対象者に対して生活上の助言や就労の援助等を行い、再犯や再非行をなくし、その立ち直りを助けるとともに、地域の犯罪予防のために活動しています。



活動費を確保したい

～助成金、クラウドファンディング情報～

住民による身近な福祉課題の解決に向けた活動を応援する助成事業があります。上手に活用し、活動を育て、広げていきましょう。

- ・ 県・市区町村社会福祉協議会（ボランティアセンター） <http://www.knsyk.jp/s/sanka/index.html/>
- ・ かながわボランティア活動推進基金 21 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5258/>
- ・ (福) 神奈川共同募金会 <http://www.akaihane-kanagawa.or.jp/>
- ・ 公益財団法人助成財団センター <http://www.jfc.or.jp/>
- ・ 特定非営利活動法人 CANPAN センター <http://fields.canpan.info/grant/>
- ・ 日本財団 <http://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/>
- ・ 神奈川子ども未来ファンド <http://www.kodomofund.com/>
- ・ 地域ささえあい助成 <http://coopkyosai.coop/about/csr/socialwelfare/2017.html>
- ・ 子どもゆめ基金 <http://yumekikin.niye.go.jp/jyosei/index.html>
- ・ 神奈川生き生き市民基金 <http://www.lively-citizens-fund.org/>
- ・ クラウドファンディング LOCAL GOOD YOKOHAMA <http://yokohama.localgood.jp/>

学校の輪旋でも似たような結果だったのかもしれない。でも、この結果が彼には、あんな惨めな自分でも親は愛してくれていた、と思えたのだろう。





子ども・若者が抱える問題について相談したい

～子ども・若者を支える主な機関・団体・人～

子ども・若者が抱える悩みへの相談窓口があります。また、地域で支える人がいます。

かながわ子ども・若者総合相談センター

子どもや若者（おおむね30代まで）が抱えるさまざまな悩みについての一次相談窓口です。教育・福祉・警察等の職員の他に、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士、キャリアカウンセラー等が相談を受けています。神奈川県立青少年センター内に設置されています。

(tel 045-242-8201)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100332/p453436.html>

24時間子どもSOSダイヤル(教育相談センター)

(フリーダイヤル) 0120-0-78310

TEL 0466-81-8111

いじめの他、子どもの悩みごと・困りごとの相談に応じています。

ユーステレホンコーナー (県警察少年相談・保護センター)

(フリーダイヤル) 0120-45-7867

TEL 045-641-0045

非行・犯罪被害・いじめなどの相談に応じています。

よりそいホットライン

TEL 0120-279-338

FAX 03-3868-3811

生活や暮らしに関する相談、DVなどの女性の相談、つらい気持ちを聞いてほしいとき等の相談電話です。(24時間、通話無料)

運営：一般社団法人社会的包摂サポートセンター

<http://279338.jp/yoriso/>

地域の子ども・若者相談機関

ひきこもり、いじめ、不登校等についての相談に応じています。地域の相談機関については神奈川県青少年相談支援情報サイト参照

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f480432/>

青少年指導員

地域社会で青少年の健全な育成活動を積極的に推進するために、地域の自治組織、青少年関係団体、青少年指導者などと連絡をとりながら、地域ぐるみで青少年を育成しています。

少年補導員

街頭補導活動や啓発活動に従事し、少年の非行防止・健全育成に努めています。

リンク集

●神奈川県社会福祉協議会

<http://www.knsyk.jp/s/sanka/index.html>

各市区町村社会福祉協議会一覧 助成金情報 生きづらさを持つ人たちの主体的な活動「セルフヘルプ・グループ」、ボランティア募集情報を掲載。

●かながわ県民活動サポートセンター

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100216/>

神奈川県による、ボランティア活動に参加したい人への情報提供と相談の場として、活動している人たちへの活動と 交流の場。施設の利用に関すること、アドバイザー相談、イベント情報なども掲載。

●NPO 情報サイト「KaNaPiO ステーション」

<http://kanagawa.genki365.net/>

かながわ県民活動サポートセンターが運営する NPO 等の活動支援につながる情報サイト。

●神奈川県青少年相談支援情報サイト

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f480432/>

県内で子ども・若者に関連する様々な課題についての相談事業を行う相談機関の一覧について、その所在地域ごとに掲載。

※児童相談所、指定都市含む各市町村の児童福祉担当課、障害福祉担当課、教育委員会、青少年相談室、ハローワーク等

回復は
何をして
誰に
してもら
うか
が重要
なこ
とあ
る。



発刊に寄せて

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治

地域福祉推進担当職員一同、企画調整・情報提供担当職員一同



神奈川県社協では、今年度から4カ年計画でスタートさせた活動推進計画に「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」を新規事業として位置づけました。平成28年3月に開催した「子ども・若者の居場所づくり活動支援事業にかかる懇談会」参加メンバーの神奈川県共同募金会、よこはま地域福祉研究センターとの三者協働により、それぞれの持ち味を生かした事業展開を目指していきます。

地域福祉を推進する「社協」として、社会福祉法人・施設、民生委員児童委員、保護司の方々をはじめとした幅広い関係者の方々が連携・協働して子どもや若者の育ちや自立を支えていくこと、地域住民の理解を深め、企業等の協力や支援の輪を広げていくことで、地域に根差した活動が持続・発展していければと考えています。

さらに、今年度下半期からは、県青少年課の「子ども・青少年の居場所づくり推進事業」を受託できたことが更なる追い風となり、公私の一体的な事業展開の可能性が見え

てきたと感じています。

今、地域共生社会に向けた住民相互の「支え合いの地域づくり」が進められ、社協には全世代・全対象型の地域包括支援体制づくりの役割が期待されています。

ここに書かれたメッセージをより幅広い関係者の皆さんにご覧いただき、子どもたちにとっての居場所の意味や大切さを一緒に考えることで、子ども・若者の育ちや自立を支える力となり、地域のネットワークが広がることを期待しています。こうした活動が地域の中で長く親しまれていくために、このガイドを役立てていただければ幸いです。

子どもたちが希望を持てる未来に向かって、皆で一步を踏み出していきましょう！最後に、このガイドの作成にあたりまして、快くご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。このガイドはシリーズ化していく予定になっていますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

センター長 佐塚 玲子・役職員一同



平成24年に設立した、NPO法人よこはま地域福祉研究センターは、行動指針を「明日の地域福祉を拓くために、人や組織との繋がりを大切に学び・実践する」。また、目指す社会像を「しあわせ（福祉）の実現のために、誰もが可能性を追求してやまない、柔らかな心と勇気に溢れる社会」としています。設立5年目の小さな研究センターですが、どうぞよろしくお願いいたします。

これまで、地域福祉推進のための仕事を通して職員皆が気づいたことは、「しあわせの実現」には、まさに、「柔らかな心と勇気」が必要だということです。今日の社会は複雑で多様な課題に満ちています。人口動態や社会保障の実態などを観るとき、現状を打開することが、とてつもなく困難に思えます。しかし、そんな今日だからこそ、社会全体で、この困難を乗り越えることが必要なのだと思います。

人や組織が繋がりが、柔軟な発想を出し合い、皆が、既存の在り方に囚われないイノベーターであろうとしたならば、そのプロセスにさえ、「しあわせ」があるのではないのでしょうか。また、人や組織が共に取り組む営みの続く先に、子ども・若者はもちろん、現代に生きるすべての人に

とってのしあわせが実現すると信じたいと思います。

神奈川県社協の「子ども・若者の育ちや自立を支える協働事業」、神奈川県の「子ども・青少年の居場所づくり推進事業」で協働組織として加わらせて頂いたことは、当センターが継続事業として行ってきた、子どもの地域生活課題・貧困問題・若者の自立と就労問題の研究、ネットワークを活かし、学びを深めるチャンスでした。

事業開始から半年、はじめてのフォーラムは、子どもや若者の今や未来を何とかしなければと思う方々に来ていただき、様々な想いを語り合う場に。本誌は、より多くの方々に子ども・若者の今を伝え、子ども・若者を地域で支える・見守る・育てる取り組みを発想されたとき、想いが消えないよう、支えになる冊子を作る。願いをこめて取り組みました。

本事業は、いよいよこれから本格始動します。更に多くの出会いや対話の場をつくり、子どもの健やかな成長を支え、若者を明るく、生き生きとした自立に導く実践が豊かなネットワークの中で誕生するよう、皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。改めて、よろしくお願いいたします。

社会福祉法人 神奈川県共同募金会

会長 牧内 良平・役員職員一同



昭和22年、第1回目の「赤い羽根・共同募金運動」が開始されました。市民の善意による活動が、平成29年度に70周年を迎えます。

共同募金運動は、運動開始当初、戦災に遭った児童養護施設等の“子ども達”の衣食住の支援などを第一目的に、国民たすけあい運動の一環として開始されました。誰もが豊かではない時代に開始された、戦後の“たすけあい”の原点でもあります。

その後、日本の経済は著しい発展を遂げ、市民に生活の豊かさが求められるようになりました。共同募金の使途も、施設福祉から地域福祉へ、法定福祉事業からNPOなどによる市民活動へと、その時々の社会情勢を背景に配分の重点が変化してきました。

しかし、移り行く時代の中にあっても、共同募金運動は、運動開始当初から今日に至るまで、常に人と人との“たすけあいの心”を基調とした事業を継承してきました。

近年、インターネットなどの普及により、急速に生活の

利便性が増したものの、人と人とのコミュニケーション能力の低下が提起され、特に“子ども達”には良きも悪きもさまざまな影響を与えています。子どもの貧困がクローズアップされている背景には、さまざまな社会的な要因が混在している事実を、皆さまとともに共通認識していく必要があります。

共同募金会でも、運動草創期に重点事業として取り組んできた“子ども達”への支援を、いま改めて現代社会を生きる“子ども達”に重点を置いて事業を展開していくことにより、募金事業が厳しい中で、運動の原点である“たすけあい”の再生に立ち返る機会となります。

このたび、本誌の発刊にあたり、取材、執筆にご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。未来を担う全ての“若者・子ども達”が、夢と希望を持って成長していく社会の実現に向けて、本誌を手にとられている皆さまとともに、支援体制を「点」から「面」へ、さらに現代的な「3D構造」による多方面から構築されることを願います。



神奈川県共同募金会では、県内の地域福祉活動や、国内大規模災害時の被災者支援活動を資金面で支援するために、毎年10月から6カ月を実施期間として、赤い羽根・共同募金運動を展開しています。お寄せいただいた善意の募金は、児童・障がい者・高齢者福祉施設の利用者をはじめ、DV被害者や難病患者などを対象とした、多岐にわたる支援活動に配分を実施しています。

お知らせとお願い

子ども・若者にとっての居場所がいかに大切なものなのかを広く社会に発信していくこと、そして身近なところで具体的な活動が広がっていくこと目指し、県の取り組みとも連携を図りながら、「子ども・若者の居場所づくり」をテーマに、ガイドや事例集の発行、フォーラムの開催を行っていきます。

今後の予定

- 2017年初夏 居場所づくり事例集(仮称)発行
- 2017年秋 第2回フォーラム開催
- 2018年春 ガイドVol.2発行

このガイドを読まれた感想、子ども・若者の居場所づくりの取り組みについて共有したい課題、活動に取り組んで気が付いたこと、身近なところで活動しているグループ等の紹介など、下記まで情報をお寄せください。

Eメール: ibasyo@knsyk.jp

(お問合せ) 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 企画調整・情報提供担当

TEL 045-311-1423 FAX 045-312-6302 URL <http://www.knsyk.jp>

子ども・若者の居場所づくりガイド
introduction

導入編

神奈川県委託「子ども・青少年の居場所づくり推進事業」

企画・制作・発行：社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会・特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

協力：社会福祉法人神奈川県共同募金会

発行：平成 29 年 3 月